

# ARTS OF 2015

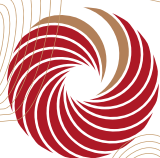
# 1.4<sup>SUN</sup> - 1.18<sup>SUN</sup>

# 11:00 - 20:00

# OMOTESANDO

# SPIRAL

# GARDEN

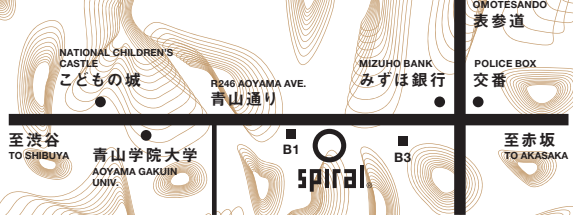


入場無料

## ARTIST

猪風来 / we+ (林登志也・安藤北斗)・  
高橋昂也 / 大森準平 / 大藪龍二郎 /  
片桐仁 / 金理有 / 小林武人 / GOMA /  
坂巻善徳 a.k.a. sense / 篠崎裕美子 /  
渋谷忠臣 / 竹谷隆之 / 堀江武史 /  
丸岡和吾 / 村上原野 / 結城幸司 (50音順)

主催：青森県 / NPO法人 jomonism



東京メトロ表参道駅 (銀座線・千代田線・半蔵門線) B1出口すぐ  
東京都港区南青山 5-6-23  
お問い合わせ: 03-5787-8830 (NPO法人 jomonism)





## ARTs of JOMON in Tokyoによせて

現代社会は、便利であることが何よりも優先され、それがゆえに効率的に物事が考えられます。地球規模での急激な人口の増加を考えれば、それが人間の知恵であることは間違いありません。しかしそれが加速することによって、環境も急激に変化し、エネルギーや食料など様々な問題が浮上し、地球上で人がこれからどれだけ生き延びていけるだろうかという、人類はもっと根本的な問題を抱えることになりました。とうぜん心ある人は、このまま先へ進んで本当にいいのだろうかという疑問を持つ

ことになります。このような時代に10000年以上続いた縄文という時代に興味を抱く人が出てくるのは、ある意味必然と言えるでしょう。なぜこんなにも永くこの時代は続いたのか。そこに、これから人類が生き延びるためのヒントがあるのではないかと。これがARTs of JOMON in Tokyoに参加するアーティストが共有している感覚ではないかと思えます。そして私自身も、計り知れない力を縄文に感じています。

グラフィックデザイナー 佐藤 卓

## ARTIST PROFILE



高橋 昂也  
KOYA TAKAHASHI

<http://www.takahashi-koya.com>

1985年愛知県生まれ。映像作家。緻密な描画と独自の技法で映像を制作し、TV、ゲーム、舞台、文化施設等で活動。民俗、宗教、自然科学の持つ神話性、また日本土着の世界認識を基盤とした表現を試み、自主的な制作活動も行う。



片桐 仁  
JIN KATAGIRI

1973年、埼玉県出身。ラーメンズとしての活動以外に舞台・ドラマ等に出演。NHK教育『シャキーン!』TBSラジオ『エレ片のコント太郎』にレギュラー出演中。また、粘土作品集『ジューシー・ジョーンズ 感涙の秘宝 粘土道2』が講談社より発売中。



GOMA

オーストラリア先住民族の管楽器ディジュリドゥの奏者・画家。2009年に交通事故で高次脳機能障害となり、事故後もなく突然緻密な点描画を描き始める。2012年には自身を主人公とする映画『フラッシュバックメモリーズ3D』が公開。



澁谷 忠臣  
TADAOMI SHIBUYA

<http://www.tadaomishibuya.blogspot.jp>

直線的に再構築する世界観を持つアーティスト/イラストレーター。その独自のスタイルで世界中の企業とのコラボレーション、クライアントワークを行っている。またhgpr Gallery Tokyoやパリでの個展をはじめ、ロンドン、NY、LAなどで数々の展示に参加。表現の場は国内外、ジャンルを問わず多岐に渡る。



丸岡 和吾  
KAZUMICHI MARUOKA

<http://www.kazumichimaruoka.com>

髑髏や骨に特化した造形作家。その活動範囲は焼物からファッションまで多岐に渡る。焼物の制作年数は長くないものの、その造形力を遺憾なく発揮した茶道具などは既に引手数多。



猪風 来  
IFURAI

1947年広島県出身。縄文野焼き技法の第一人者。縄文の心を求めて北海道の大自然の中で暮らし縄文の美の根源性に開眼、生命と魂の文様が躍動する野焼き作品を多数創作。近年は穴窯での施釉縄文造形作品や、華麗に舞う渦の彩色縄文文様画など新境地の猪風来縄文スパイラルアートを創作。2005年岡山県新見市に猪風来美術館開館。



大森 準平  
JUMPEI OMORI

<http://www.megumiogita.com/cn4/pg119.html>

アニミズムを感じさせる抽象的な黒陶の彫刻から記号的に縄文土器を扱ったポップなシリーズまで幅広く展開する。既にNYの美術館に作品が所蔵されるなど海外での評価も高い。



金理 有  
RIYOOKIM

<http://www.riyookim.com>

焼物を学び始めてから古代の遺物に興味を持ち、未来も古代も想像力の世界であるという着想を得てその双方を感じさせる作風に至る。刺青やクラブミュージックなどの現代文化を「土着」と仮定し、原始文化や宗教との関連性を考察しながら表現へと昇華する。



坂巻 善徳 A.K.A.SENSE  
YOSHINORI SAKAMAKI

<http://www.sensepeace.me>

即興的に「カタチ」を増殖させていく描法で、瞬間に画面に有機的とも機械的ともいえる造形を出現させる。生命力に溢れた形は一期一会で変化する。



竹谷 隆之  
TAKAYUKI TAKEYA

1963年北海道出身。映像、ゲーム関連ではキャラクターやプロップのデザイン、アレンジ、造形を手掛け、トイ、ガレージキット関連では企画、原型制作、造形監修を手掛ける。2012年の「館長庵野秀明 特撮博物館」で上映された「巨神兵」のコンセプトモデルも話題に。



村上 原野  
GENYA MURAKAMI

1987年北海道生まれ。陶芸家。猪風来に師事し、縄文土器・土偶の徹底的な模写を通して、宇宙と自然の波動、生と死と再生への畏怖、折りの世界観が表現された縄文造形と縄文野焼きの心技を体得する。『現代に生きる己の縄文の感性』を独自の縄文造形に込め、躍動感あふれる土器やオブジェを創作する。



WE+ 林登志也 TOSHIYA HAYASHI  
安藤 北斗 HOKUTO ANDO

<http://www.wepius.jp>

グラフィック、プロダクト、広告、インタラクティブ、技術開発等、フィールドを限定せずさまざまな活動を展開するクリエイティブスタジオ。プロダクトそのものに時間や場所の意味づけを与えるプロジェクトを得意とする。



大藪 龍二郎  
RYUJIRO OYABU

小学校の授業で縄文土器を知り、陶土に魅了され陶芸家を志す。1993年に、野生動物写真家、久保敬親氏のアシスタントとしてアラスカを2ヶ月間にわたり取材旅行。写真家星野道夫氏とも出会い、野生動物の持つ力と地球の織り成す自然に感銘を受ける。土と炎を使い「自然界の不思議な力」をモチーフに「真の美とは何か?」を模索しながら制作している。



小林 武人  
TAKETO KOBAYASHI

<http://vimeo.com/user7375530/videos>

CGという最新の道具を使いながら、その作品は縄文精神に基づいて制作される。新しい技術により、縄文人が描き出せなかったであろう文様を乱舞させ、太古と未来を繋ぐ大きな円環を創造する。



篠崎 裕美子  
YUMIKO SHINOZAKI

ビートニク文化の視覚表現に影響を受け、セラミックに原色を使った装飾を施す呪術的な造形が特徴。リズムを刻むような点描と鎖(しのぎ)は縄文の造形に通じるものがある。



堀江 武史  
TAKESHI HORIE

修復家。考古学の文献を参考にした作品づくりも行う。「縄文の魅力の世界につたえたい~私の考える縄文遺物と現代美術の協同~」等で自作品を用いて縄文遺物を紹介。2002年に企画した三内丸山遺跡での一般向け「土偶のレプリカづくり」は11年間続いている。「縄文文化の伝え方」が終生のテーマ。



結城 幸司  
KOJI YUKI

版画家、ミュージシャン、アイヌ民族の運動家としても活動。アイヌの音楽と舞踏、手仕事などを伝える「アイヌ・アートプロジェクト」を2000年に設立。全国でライブやワークショップなどの活動を行っている。2008年には世界12カ国22民族による「先住民族サミット」のアイヌモシリ2008事務局長を務めた。